

集中  
レポート

愛車はそのままに装備だけを次世代モデルにアップグレード

# 買い替えのココロ

## 【“ナビ”編】

これまで“ナビ”といえば、専ら愛車の乗り替え時に換えるのが主だった。しかし、今は違う。愛車の長寿化が顕著になり、機能進展が目覚ましい現代モデルにあっては、“ナビ”だけを買う選択肢も現実的になっている。ではその実際はどんなものか？編集部スタッフによる体験レポートの体裁にて、ここで二例お届けしよう。



新

Panasonic Strada F1X  
**CN-F1X10BGD** 2024年モデル

## カーナビゲーションシステム

思った以上に大きい5年超分の技術進化  
同じようでもるで別物!?



旧

Panasonic Strada F1X  
**CN-F1XD** 2017年モデル



取り付けた車両は旧型の輸入車。装着適合は未確認のクルマながら、オウンスクで装着した。もともと2DIN用にブラケットを製作しており、周囲のスペースにも主だった干渉物がなかったために取り付け可能と判断。付けてみるとなるほど、汎用性は高い。

立体的な存在感は色褪せず、汎用型ながら9インチの大画面は見やすく使いやすさも上々。使用期間の6年間を通じ、特に不満を覚えたこともない。その一方でストラダF1Xは着々と進化し続け、狭額縁の10V型へと拡大し、視野角に優れる鮮やかなHDブリリアントブラックビ

見た目のインパクト以上に親切さと使いやすさに納得  
これまで6年使い続けてきたのは、パナソニック・ストラダCN-F1XD。フローティングディスプレイの先駆けとなったDYNABIRDディスプレイ、その2代目のモデルにあたり、左右方向への首振り機構を搭載するにあたって「買うなら今！」となった。

その実力ははなから理解していたものの、日常で使ってみると、その違いは想像を上回る。1インチの違いとはいえ、狭額縁による見え方は丸っきりの別物。運転中の視界が広がったような気さえする。見やすさに優れる質の向上はもちろん、熟成された地図描写も加味されているのだろう。6年分の年を重ねて目の老化が進んだ自身だからこそ、余計にそう思うのかもしれない。  
薄く大きく洗練されたルックスながら、使い勝手に我慢を強いられる



50mスケールでのマップ表示が、個人的なデフォルトモードに。ドライブ時の立ち寄りに必要な最小限の施設アイコンもうるさくない範囲で配置でき、道路や建物の大小までパッと見て視認できる。10V型の画面サイズが効いているのだろう。